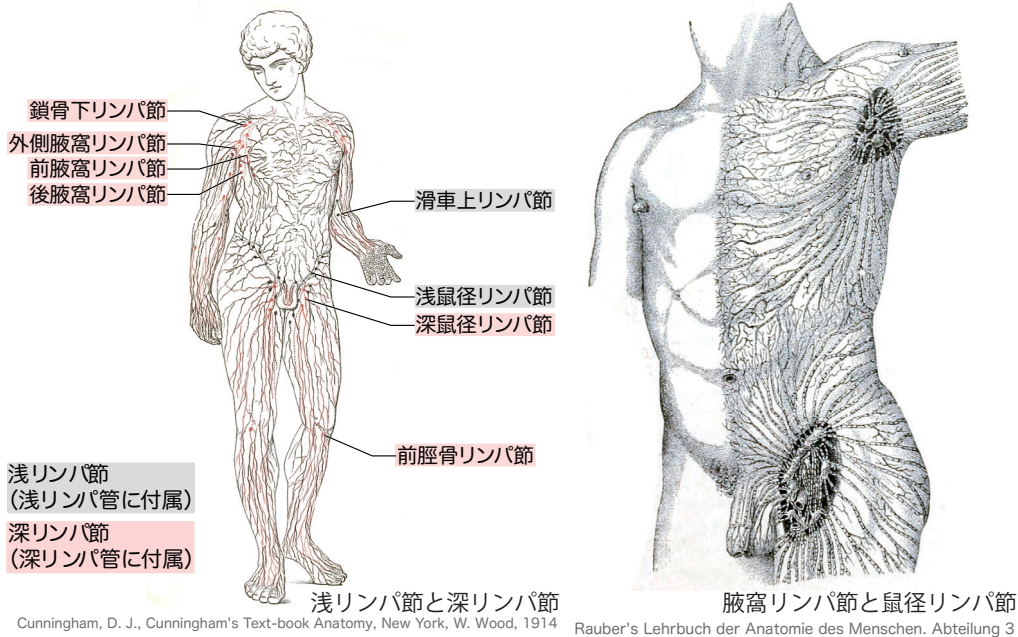




指圧師に役立つ解剖学⑨ リンパ系のその2——リンパ管の走行

前回のリンパ系概要に続き、今回は全身のリンパ管の走行について見てみます。

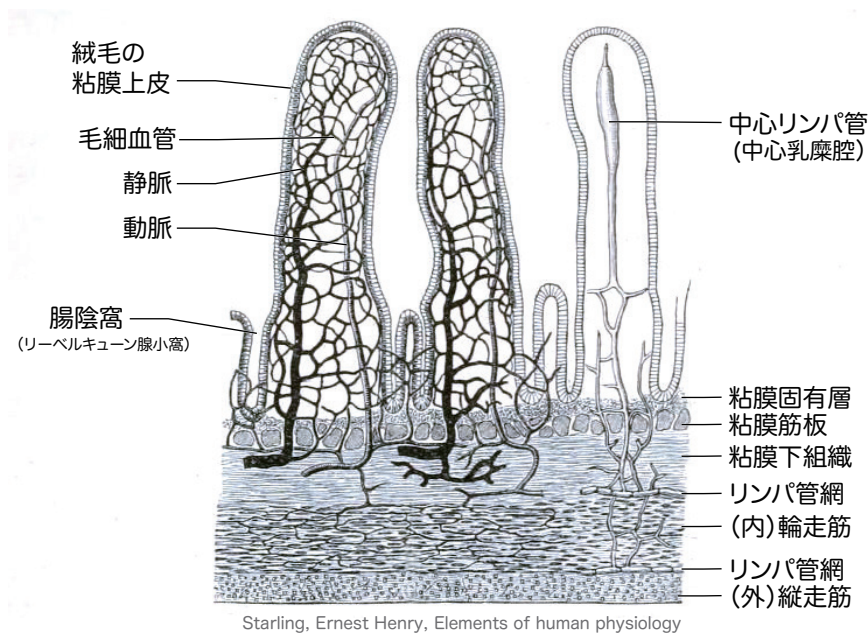
【リンパ管の走行】



Cunningham, D. J., Cunningham's Text-book Anatomy, New York, W. Wood, 1914

Rauber's Lehrbuch der Anatomie des Menschen. Abteilung 3

リンパ管は、皮下にある浅リンパ管と、身体の深部を走る深リンパ管に大別されます。浅リンパ管は皮静脈と伴行することが多く、深リンパ管の多くは深部の血管、特に深静脈に伴行します。浅リンパ管と深リンパ管は各所で交通し、最終的にはリンパ本幹に注ぎます。



Starling, Ernest Henry, Elements of human physiology

【中心リンパ管（小腸粘膜の絨毛にあるリンパ管）】

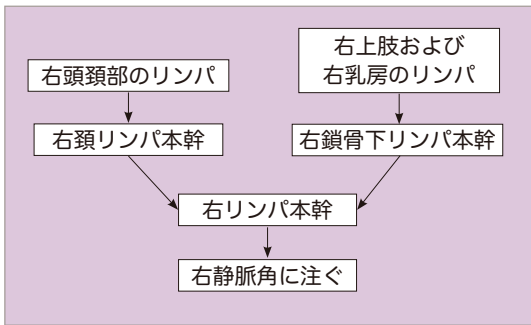
小腸で吸収される栄養素のうち、糖とアミノ酸は毛細血管に吸収され門脈へと集められますが、脂質は中心リンパ管に吸収され、乳び管、乳び槽より胸管へと流れます。食物をとったあとは、乳び管の中を牛乳のように白濁したリンパが流れます。この脂肪滴を含んだリンパを乳びと呼びます。

※ 基本的に脂質はリンパ管に吸収されますが、「中鎖脂肪酸」は糖やアミノ酸と同様に毛細血管に吸収されて、門脈に集められ肝臓に送られます。全身にめぐる前に肝臓にてある程度が分解されるから「太りにくい油」として売られています。天然にはココナツオイルなどに中鎖脂肪酸が豊富に含まれていますが、化学的に合成された中鎖脂肪酸を長期にわたって摂取したらどうなるかのデータはありません。本来、油はリンパ管から静脈に入り、ゆっくり全身を巡り徐々に肝臓に入っていくようにできています。只でさえ、糖やアミノ酸、さまざまな物質代謝で忙しい肝臓に合成された中鎖脂肪酸が大量に送り込まれるのは、本当に身体にいいのだろうか？とずっと疑問におもっています。皆さんはどう感じますでしょうか。

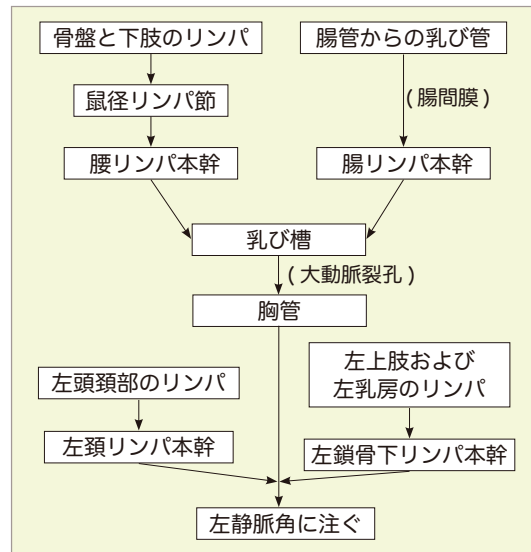
【全身のリンパ本幹】

毛細リンパ管から始まったリンパ管は、合流を繰り返しながら少しずつ太くなり、リンパ本幹へと集まり、最終的に鎖骨上窩に位置する左右の静脈角より静脈に注ぎます。

右リンパ本幹
(右上半身のリンパ)

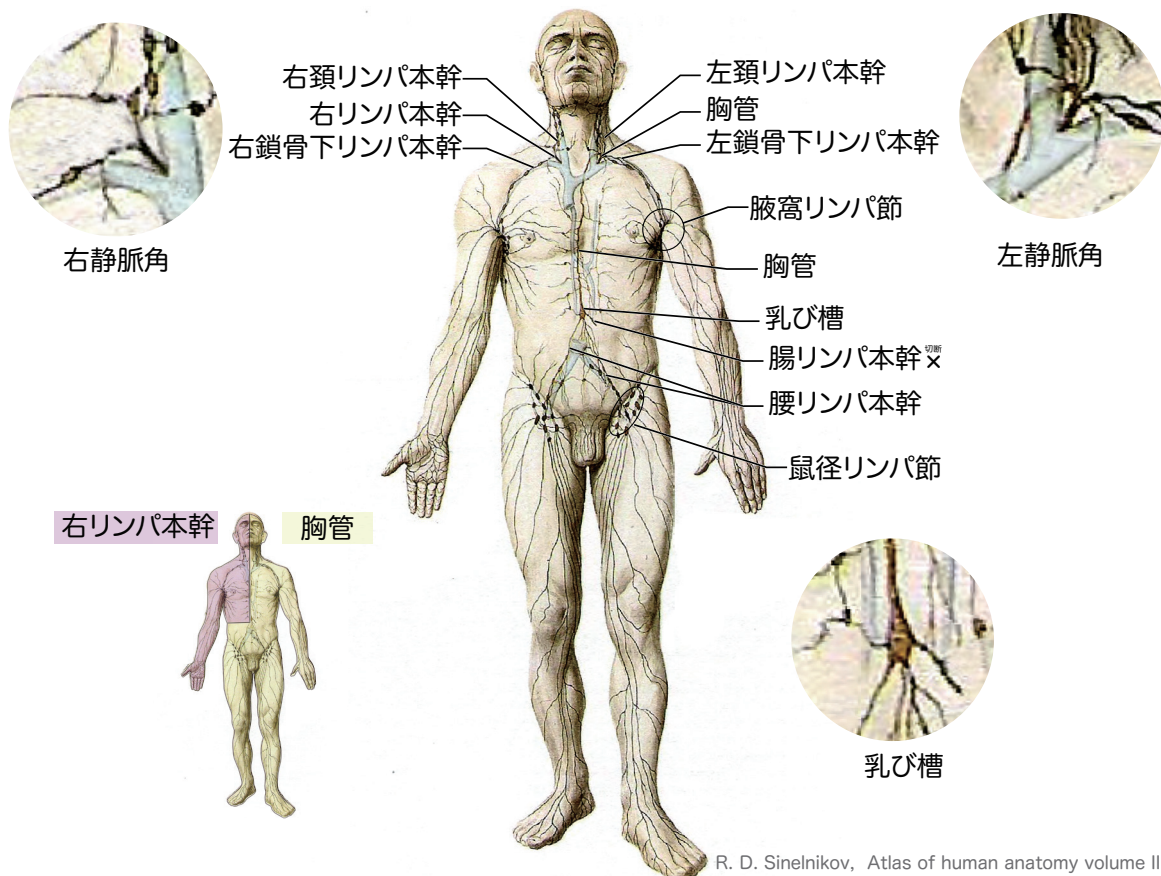


胸管
(下半身+左上半身のリンパ)



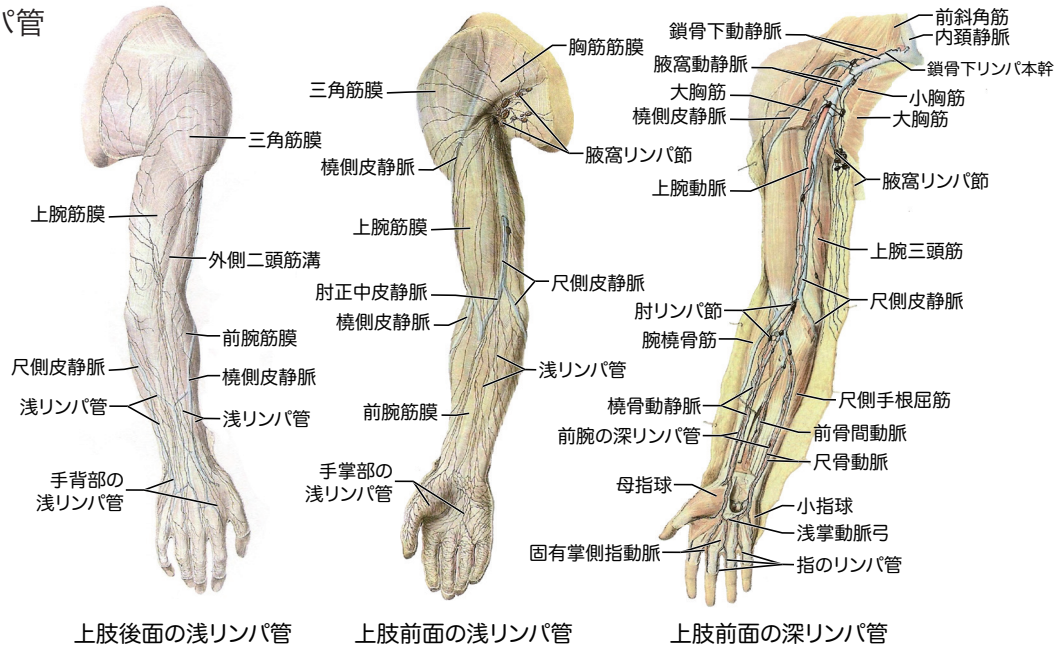
- ・ 右上半身のリンパ液は右リンパ本幹に集められ、右静脈角に注ぎます。
 - ・ 左上半身と下半身のリンパ液は胸管に集められ、左静脈角に注ぎます。
- 左右の静脈角に注いだリンパは再び静脈を流れる血液に還流されて心臓に戻ります。

■ 全身のリンパ本幹

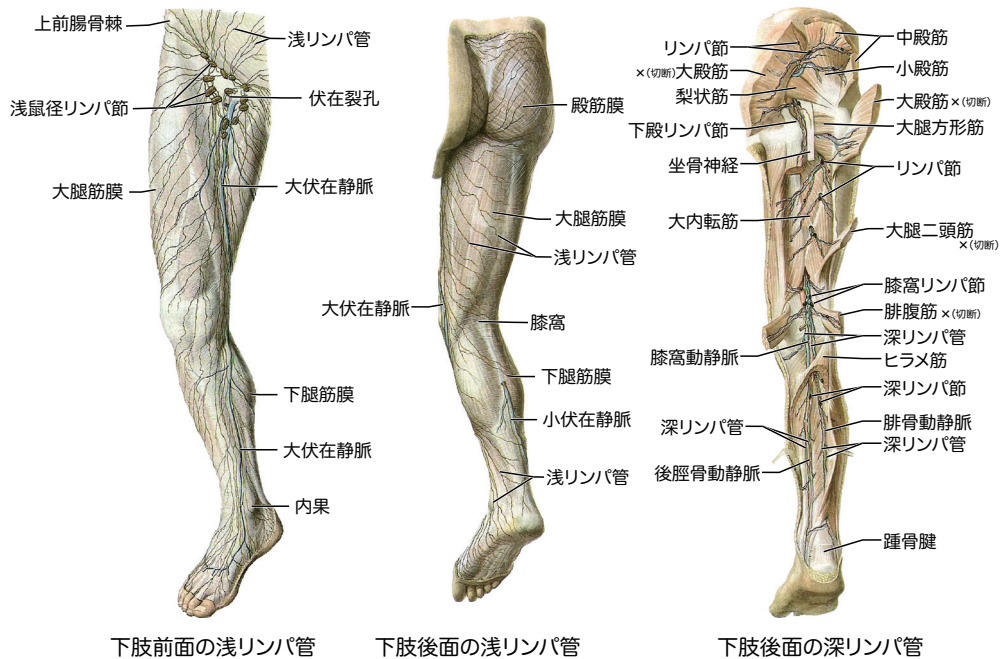


■ 参考) リンパ管の局所解剖

▶ 上肢のリンパ管



▶ 下肢のリンパ管



▶ 頭頸部のリンパ管

